



20 逸馬図

野村雪江

一幅

明治四十年（一九〇七）

絹本着色

本紙一六〇・三×一四六・三

豪華な飾りが付き、美しい蒔絵が施された鞍を身につけた、白毛と鹿毛の二頭の馬が満開の山桜の下を疾走している。一陣の春風によって大きくしなる山桜の枝と、舞い散る桜の花びら、そして馬のたなびくたてがみや尾、馬具飾り、これらが右から左へ一斉に流れることで、画面には躍動感が溢れている。乗り手の姿が描かれていないことが、見る者の想像力をかき立て、散りゆく桜のほのかなさと相まって、詩的な雰囲気を感じさせる。

作者の野村雪江（一八七五―没年不詳）は、名を初喜とし、旧熊本藩士の家に生まれた。はじめ近藤樵仙の門に入り、上京後は村瀬玉田に師事した。玉田を介して野村文挙の長女と結婚し、野村姓を継いだ。日本美術協会を中心に活動し、第二回文部省美術展覧会に「牧場の朝霧」を出品して三等賞を受賞したのを皮切りに、文展でも数回の受賞を果たした。雪江は玉田ゆずりの写実性を發揮して、特に馬を得意の画題としたことで知られる。本図は、明治四十年（一九〇七）第四十一回日本美術協会美術展覧会にて銅牌を受賞し、宮内省買上げとなったもの。『美術画報』第二十二卷十四号（明治四十一年三月）には「色彩鮮麗を以て聞ゆ」とある。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan